

# 本人は問題行動とは思っていない ～どうすれば、関わってくれるの～

ゆうあい 男性棟支援員一同 生活支援員 口 羽 希

## 1. はじめに

ゆうあいは、支援区分が5以上で施設入所30名（定員）が利用される施設です。

現在の入居者は、そのほとんどが支援区分6の重度ASD（自閉症スペクトラム）の方々です。

人それぞれの性格があるように、同時に問題行動も様々なものがあります。

我が家同然の施設入所において、利用者のひとりひとりが喜びを感じ、生涯安心した生活を送れるように支援することが、私たち生活支援員の使命だと思っています。

今回は、Aさんのゆうあいでの尿失禁行為や服濡らしの問題行動が、帰省されたご家庭でも強化され、ご家族への精神的負担が深刻化されてきたため、支援員とご家族の方が一丸となって、様々な支援において軽減できた経過と結果について報告します。

## 2. プロフィール

- ・氏名 Aさん（男性）
- ・年齢 33歳
- ・障害 ルビンシュタイン・テイビ症候群（指定難病102）／てんかん
- ・支援区分 6
- ・特性 本人からの表現方法に言葉はなく、手を引いたりジェスチャーが数種類。  
聴力は、中耳炎や箸を耳に入れることで化膿した経緯があり、背後からの声掛に対してほとんど反応がなく、かなりの聴力低下がある。  
言葉の理解も疑わしく、今までの生活習慣の感覚で行動している。  
排尿は立っても座っても出来るが、排便は多毛にて拭き取りに介助が必要。  
活動後や排便前、訴えが叶わなかった時等のさまざまなケースで尿失禁があり、散歩中や中庭で水たまりを見つけると服濡らしがある。  
就寝前はなかなかパジャマに着替えず、就寝しても深夜から早朝までに目覚めるとトイレの蛇口で毎日着衣の服濡らしがある。衣類は職員が管理している。  
眉毛やこめかみの毛を抜いたり、他者へちょっかいをかけることがある。  
相撲や野球など、動きのあるスポーツをテレビで見ることが好きで、屋外でも飛行機や建設重機を見つけると眺めるのが好き。  
家族が用意した2冊～3冊のアルバムを眺めているのが好き。  
職員へは男女を問わず、自分を真似るようにジェスチャーし、真似ると声を出して喜ぶ。



### 3. 問題行動の『尿失禁』が始まった経緯

入所当初の約15年前は、目立った問題行動も少なく、職員を真似てお手伝いもしてくれる、いたずら好きなAさんでした。

それから8年後、新しくYさん（自閉症19歳男性）が入所。排泄に介助を必要とされる方を『リビング』と称される一室で日中支援していく事となり、AさんとYさんと他1名の3名がリビングで過ごすこととなりました。Aさんの居室は棟繋ぎの『B棟』という別棟です。

3名の利用者さんに対し職員が1名で、途中から入所したYさんは尿失禁・便失禁を合わせて一日で50回以上あり、職員がYさんに関わる割合が増え、次第にAさんもYさんの行為を真似るようになりました。B棟の居室へは就寝時のみ戻れました。

### 4. 生活の様子

入所当初から起床後の服濡らしは時々ありましたが徐々に強化され、深夜に目覚めると立ち上がりそのまま尿失禁があります。さらに着ていた服をトイレまで持って行くと、蛇口の水で濡らすことが増え、着替えのパジャマを渡してもしばらく着ることを拒み、パジャマを投げたりしていました。パジャマを着て布団の中に入っても、職員がB棟から離れると急いでトイレに服を濡らしに行っていました。

起床後にB棟の居室からリビングに移動しますが、日中活動での屋内外や離れた食堂からリビングに戻る途中の廊下でも、尿失禁してズボンとパンツを脱いでいます。

把握の職員が交代するとすぐに尿失禁、便意があるとその前に尿失禁、職員がトイレ付ユニットバスや小便器から離れると、すぐに服を脱ぎ蛇口やトイレで服を濡らします。

Aさんに関わると、テンションが上がり失禁するので、なるべくそっと様子を見ていたほうがいいと言う職員もいました。

Aさんは、大好きなアルバムを眺めながらも、常に職員の行動を観察して離れるタイミングを見ているように感じる時さえあります。

### 5. 家族との話し合い

家では帰省するとすぐに風呂に入り、そこで服を濡らす。浴室に鍵をかけるとトイレで濡らし、衛生的に風呂の方がまだいいと、ご両親のどちらかがトイレを見張っています。

尿失禁や服濡らしの問題行動は家庭でも増え始め、ご両親から、「リビングに入ってから不適切行為が始まり、そして増えてきた。なんとかしてほしい」と言われていました。

Yさんを真似るAさんですが、Yさんが適切に排泄できればAさんの行動も改善するとの考えと、居室があるB棟は範囲が広く把握が遅れて服濡らしが強化される事を懸念し、把握と対応が早く行なえるリビングの支援を見直し、改善したいとお伝えし、了承を得ました。

その後、見直した支援を徹底するも日中の問題行動は、わずかに減少した程度でした。

## 6. ご家族からの悲痛な叫び

2017年3月 Aさんがインフルエンザを発症。

自宅に帰省し、ご両親が看病していましたが、高熱と体調不良から着替え用の衣類を全部濡らし、さらにAさんの居室で便失禁が2回あり、お母さんから「初めての事でとても心痛しており、今後は失禁が無くなるまで帰省はしない」と言われました。

ゆうあいとしても「失禁を無くしたいので、12月まで帰省を待ってください」とお願いしました。ご両親も精神的に辛い気持ちを打ち明けて下さり、なにより一番苦しんでいるAさんの為になんとかしなければならぬと感じ、そして早くAさんの帰省を家族全員が安心して迎え入れられるようにしたいと思いました。

## 7. 支援の取り組み

ルビンシュタイン・テイビ症候群は、全身の様々な臓器に合併症を有する先天異常症候群のひとつで、泌尿器・腎疾患等の身体的な要因も疑いましたが、まずは普段からの関わりを増やし褒めることで、職員との関係性を築き、楽しく過ごすことを主軸として支援を進めました。

しかし、“失禁があった場合は毅然とした態度で一緒にきれいにし、一時的に関わりを断つ”方法で様子を見て、楽しかった関わりのON/OFFを感じてもらいたいと思いました。

2017年4月11日より職員の徹底事項をマニュアル化[表1]・[表2]し、支援を開始すると共に行動分析[表3]で記録も残す事としました。

**表1** 勤務タイプ別の時間割りを作成し生活リズムを統一する。

時刻	Aさん	活動者	活動内容	要配慮
7:00	自庫居室まで起床	起床活動が出来るまで把握	起床ルーティン(階段等に寄りかかると見られる様子を教える)	
7:30	朝食		朝食準備	リビングと一緒に食事(食後、リビングで食器を把握)
9:15	自庫居室に戻る(心算を覚悟した後)		休憩して把握	
10:00	AA活動参加	予定通り参加終了	AA活動	
12:00	昼食		昼食準備	リビングと一緒に食事(食後、リビングで食器を把握)
13:30	自庫居室に戻る(活動中の活動に参加)		AA活動	リビング活動が出来るまで一緒に活動に参加
15:00	活動終了後、自庫居室に戻る(入浴後、自庫居室に戻る)		予定通り参加終了	
15:00	夕食		夕食準備	リビングと一緒に食事(食後、リビングで食器を把握)
17:00	作業的のリスレブ(作業的のリスレブ)		夕食準備	リビングと一緒に食事(食後、リビングで食器を把握)

**表2** YES/NOチャートを作成し統一した支援を明確化する。

**【トイレ】** 活動前後: 移動前は必ずトイレ清掃、しっかりと提供も忘れない!

```

        graph LR
            A[トイレ] --> B[清掃まで行ってOK]
            B --> C[トイレ終了]
            C --> D[トイレに帰る]
            D --> E[更衣室の扉に鍵をかける]
            E --> F[忘れず清掃する]
            F --> A
            G[トイレ] --> H[トイレ終了]
            H --> I[更衣室の扉に鍵をかける]
            I --> J[忘れず清掃する]
            J --> G
            
```

**【失禁】** 無表情で毅然とした態度で対応する事。

```

        graph LR
            A[失禁発生] --> B[職員で掃除し、本人と掃除]
            B --> C[誰かの介助を入れる]
            C --> D[清掃も出来る、更衣室の扉を閉める]
            D --> E[失禁]
            E --> F[3秒~1分程度]
            F --> C
            G[失禁発生] --> H[可能な状況でトイレへ移動]
            H --> C
            
```

**表3** 行動分析表に、失禁有・無、脱衣有・無、服濡らし有・無を○印でチェックし、行動の内容を記入することで、誰が見ても状況を判断できるようにする。

月日	失禁	脱衣	トイレでの衣類濡らし	表情
8/29	有	有	有	良い・普通・険しい
時刻	その時の状況と職員との対応 リビングでうんちをしながらかかっていたが、目を覚まして寝ぼけた状態で更衣室の扉を閉めずとも脱衣。取次員が更衣室の扉を閉めてくれた。対応もあって、新しいパンツとズボンを買った。			
月日	有	有	有	良い・普通・険しい
8/29	その時の状況と職員との対応 リビングでトイレ掃除も、白粉の支援と合わせてトイレが汚れたので、更衣室の扉を閉めずとも脱衣。対応もあって、新しいパンツとズボンを買った。			
時刻	リビングでトイレ掃除も、白粉の支援と合わせてトイレが汚れたので、更衣室の扉を閉めずとも脱衣。対応もあって、新しいパンツとズボンを買った。			
月日	有	有	有	良い・普通・険しい
8/29	その時の状況と職員との対応 リビングでトイレ掃除も、白粉の支援と合わせてトイレが汚れたので、更衣室の扉を閉めずとも脱衣。対応もあって、新しいパンツとズボンを買った。			
時刻	リビングでトイレ掃除も、白粉の支援と合わせてトイレが汚れたので、更衣室の扉を閉めずとも脱衣。対応もあって、新しいパンツとズボンを買った。			

《2017年4月》（支援開始）

まず、日中の主な把握場所を『リビング』から『B棟』の居室に変更し、職員が近くで把握出来るように業務内容も変更しました。

職員全員へは、「失禁しなくてもAさんをいつも見ているよ」と、普段からAさんといっばい関わって関係性を持ってほしいと伝えました。

トイレで成功したら強化子として『お菓子』のじゃがりこを1本あげることを始めると、強化子目的で徐々に失禁なく排泄が出来るようになりました。

同時にトイレの回数も増えてきましたが、まずは強化子と褒めることで『好子』を得てもらい、成功体験を増やすことを継続しました。

強化子があるからといって安心できず、廊下でズボンとパンツを下ろしパンツを何度か上げ下げしたり、居室でDVDやアルバムを見ていると思えば、さっと立ち上がり尿失禁したり、脱衣したと思えばその場で便失禁したりと、なかなか成功体験に持っていくまでの態勢が整わない時間が続くこともありました。

そこで、Aさんの大好きな野球をしようとおもちゃのバットとボールを買ってきて、廊下でキャッチボールをしました。Aさんはまったく別の方向へボールを投げてしまいましたが、それを追っかける職員を見てケラケラと笑っています。

四股を踏んでAさんと相撲の取り組みをしたり、風船を膨らませてAさんの前で手を離し、噴き出てくる空気で喜んだり、ペットボトルを使い職員お手製のボウリングで遊んだり、職員が楽しそうにAさんと関わっていると、それを見ていた他の利用者さんも覗きにきて一緒に遊んだりしました。やがてAさんの顔から、職員へ向ける笑顔や真似ポーズが増えてきました。

《2017年7月》（3か月目）

夕食後に乾いた洗濯物の服たたみと収納のお手伝いをしてもらうことを始めました。

ズボンとシャツは自分で折りたたむことが出来るので、たたんだ後は衣装ケースに収納してもらいます。時々、洗濯物のズボンを穿き替えようとするのですが、そこは交換せずに全部たたんでもらいました。収納する引き出しに服やズボンが視覚で判断出来るようにイラストのラミネート **図1** を貼ると、それぞれの衣類を間違わずに初回からマッチングさせて収納することが出来ました。ケースに残っていた衣類が見えたのでしょうが、びっくりです。

1枚1枚褒めながら、終わった後もたくさん褒めて報酬でジュースを提供します。

この支援を開始してから、この時間帯での尿失禁はかなり減りました。



就寝前にパジャマに着替えますが拒否することが多く、着ようとするときは衣類をクルクルと4～5周、多い時は10周以上回し、前後を確認してから着ます。パジャマの前面にはお母さんが取り付けた目印のボタンがついています。

5周以上回すときは、職員がそのまま首を通して着られるように服を持ってあげます。

就寝後、深夜から早朝までに起きることがあると、その場でズボンとパンツを脱ぎ、置いた衣類に向かって放尿したり、そのままトイレの蛇口まで持って行き、毎日濡らしています。

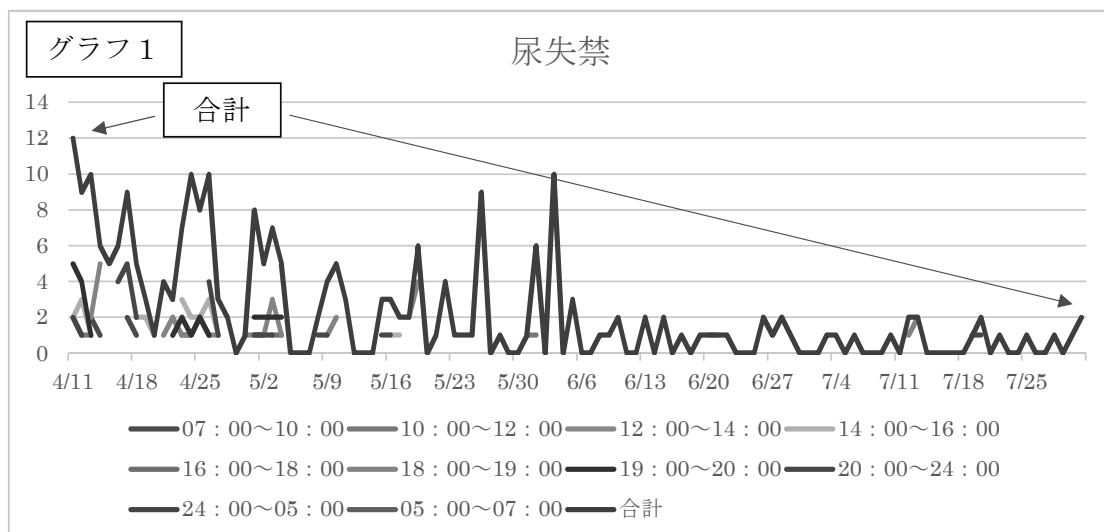
24時ぐらいまでに服濡らしで床が濡れた場合は、職員が掃除を行った後に、同じ場所をAさんときれいにすることを徹底しました。本人もかなり嫌がりますが、これを『嫌子』として感じてほしいと思ったからです。睡眠時間も考え、24時以降は職員だけで掃除しました。

《2017年9月》（5か月目）

自宅では早朝に起きても外が暗いと再入眠されるらしく、ゆうあいでもゆっくり休んでほしいと遮光カーテンに取り換え、窓ガラスにはスモークフィルムを貼りました。

朝となり職員が布団をめくってみると、いつもと変わらず全裸で楽しそうにアルバムを見ていました。これは、それほどの効果がなかったようです。

尿失禁の推移を支援を開始した4月から「グラフ1」で表示しました。



関わりを増やし、強化子を使い成功体験を得て褒めることで2か月後からは、尿失禁が減少。

## 8. Aさんの変化（6か月後の振り返り）

支援を開始した当初は、アルバムを見ながらチラチラと職員の様子を見て、Aさんから職員の方に近寄ることは少なかったのですが、強化子も使いながらもAさんとの関わりを増やしていくと、2週間後ぐらいからAさんの方から職員に近寄ってきてジェスチャーで「真似をしてよー」と表情良く関わりを求めてくることが増えてきました。

ひとりでトイレに行っても、脱衣なく排泄が終わるとすぐに居室に戻るようになり、4月から始めた支援が、9月頃からほとんど尿失禁なく過ごすことが出来てきました。

服濡らしはまだありますが1週間に1日程度で、それさえ無い日も出てきました。

《2017年10月7日》（6か月後）

8月ぐらいから保護者より「帰省させたい」との申し出があり、もう少し待ってほしいとお願いをして、ついに予定の12月より2か月も早く、半年ぶりの帰省が出来ました。

自宅では、「尿失禁が1回あったけど、服濡らしはなかったよ」と、保護者と一緒に喜びました。

## 9. 新たな問題が発生

《2017年10月17日》（6か月半後）

このまま順調にいくと思われていましたが、この日、居室で突然「うーん、うーん」と、うなり声をあげてパンツとズボンで脱いで足や身体を掻きむしりはじめました。

身体の乾燥からなのか、ダニなのか、ストレスなのか、この日から毎日続くようになり、やがて、夕方の居室で多く見られた行為が、場所や時間に関係なく起こるようになりました。病院受診し、処方された薬を塗布しますが改善しません。布団も十分に天日干しをしたり、ダニ駆除のスプレーを散布しましたが、いずれも違うようでした。そこで、衣類が自由に着替えられるように3セット、居室に置くことにしました。一時的に着替えることで、気分転換となるようですが、「うーん、うーん」が始まると、痒みからか服をすべて脱ぐことがさらに増えてきました。脱いだ服をなんとか着ようと試みますが、痒みからか服を投げてしまいます。

## 10. 急展開

疾患の症状から体毛が太く多いためズボンに体毛が絡みつくのではないかと、普段からゆったりめの衣類が多く皮膚や体毛が擦れ痒いのか、特に改善されないまま1か月が過ぎました。

帰省も再開しており、自宅でも激しく痒がる行為がありました。

Aさんは以前から、時々パンツを脱いで上下させ、履き心地を気にする行為がありました。

“よし、パンツを変えてみよう”

以前に2度、パンツを交換するお話をお母さんにしましたが、「幼少期から白のブリーフしか履いてないから、ほかのパンツは履かない」と断られていました。もしかしたら痒みの要因の一つかもしれないと思い、もう一度、提案することにしました。「Aさんは、ブリーフの少しゆったりとした感じを気にしている様子が伺えるので、色付きのボクサーパンツはいかがでしょう」とお話ししたところ、「じゃあ、明日買ってきます」と緑色のボクサーパンツを6枚買ってこられました。その夜にAさんに渡してみたところ、まるで昨日も履いていたかのように何の拒否もなく履かれました。その日から痒がったりすることが、一気になくなりました。

## 11. 服濡らしに変わる行為が始まる

《2018年6月》（翌年）

尿失禁は、ほぼなくなりましたが服濡らしは週の半分まだあります。

そして、深夜に脱衣した服をタンスの上部に投げ込む行為が出てきました。脱いだ服を入れるボックスを用意し、お母さんにイラストを描いてもらいました。ボックス **図2** を居室に設置し、脱いだ衣類を手添えで入れると、次からは本人がほとんどボックスに入れてくれるようにな



図2

りました。

## 支援の履歴

年月日	支援の目的	支援の変化	備考
2017年4月11日	トイレ・パジャマ支援	行動分析開始	
2017年4月16日	トイレ・パジャマ支援	保護者よりパジャマの追加がある	5セット
2017年4月20日	トイレ・パジャマ支援	職員の徹底事項見直し	強化子と着替えの場所
2017年4月20日	トイレ・パジャマ支援	トイレで成功したら強化子としてじゃがりに	
2017年5月5日	トイレ・パジャマ支援	遅2の1H健弱終了	～20:00
2017年5月27日	環境整備	カーペット買い替え	旧カーペットゆうあい廃棄
2017年6月1日	トイレ支援	強化子追加、トイレ成功3回に1回程度で一口ゼリー	珍しがるが好んでいるか不明
2017年6月22日	トイレ・パジャマ支援	B棟との扉を夜間開放し、衣類濡らし未然防止	
2017年6月23日	トイレ・パジャマ支援	行動分析表一部変更	成功記入とパジャマ色減
2017年6月26日	話し合い	ご両親、職員1、職員2、職員3で話し合い	次回9月頃
2017年7月12日	自立支援	洗濯物をたたみ、ダンスに収納	18:00～19:00
2017年7月16日	自立支援	洗濯物支援に報酬として、ジュースを提供開始	失禁減る
2017年8月5日	トイレ・パジャマ支援	保護者の意向で就寝直前の水分補給量減らす	様子見するが変化なし
2017年8月16日	トイレ・パジャマ支援	24時のトイレ誘導と段ボールで朝日遮断	
2017年8月22日	トイレ・パジャマ支援	段ボール遮断は中止。遮光シート申請中	段ボール朝に剥いてしまう
2017年8月30日	環境整備	遮光カーテン設置	保護者購入
2017年9月4日	環境整備	遮光フィルム両側上段のみ貼り付け	下段隙間作り後日予定
2017年9月5日	環境整備	遮光フィルム残りの両側下段貼り付け	中段に隙間をあける
2017年9月10日	環境整備	居室にスリッパ入れを設置する。	向き合っている
2017年9月18日	環境整備	居室内のレイアウト変更。加湿器設置	
2017年10月6日	環境整備	ダンス上段にダイヤル錠設置	勝手に着替える
2017年10月7日	帰省	ひさびさの宿泊帰省	失禁1回、濡らし無し
2017年10月14日	帰省	姪が居たからか失禁3回	濡らし無し
2017年10月21日	帰省	失禁あり、自分でパジャマに着替える	濡らし無し
2017年10月24日	トイレ・パジャマ支援	行動分析表終了	帰省良好により
2017年11月7日	皮膚科受診	下半身掻き塗る事が2週間程度前からある	塗り薬処方 改善せず
2017年11月22日	痒み「あー」	ズボン×3、靴下×3、パンツ×3ダンスに用意。	かゆみ薬遮断
2017年11月30日	痒み「あー」	ズボン×3、靴下×3居室に自由に用意	あー無くなる
2017年12月24日	痒み「あー」	ダンス上段ダイヤル錠撤去	あー、程度小さく継続ある
2017年12月24日	痒み「あー」	ボクサーパンツ6枚購入	あー、なくなる
2018年3月12日	環境整備	2段ボックスを足場にするので一時回収	ダンス上部を覗く

## 12. おわりに

約1年後のAさんは、

- ・尿失禁・・・月に2～3回程度まで減少。
- ・服濡らし・・・1週間で2回程度まで減少。

服濡らしに関しては、支援開始の約1年半後より現在までまったく無くなりました。

問題行動が少し落ち着いた頃、「そろそろ帰省させたい」と保護者の申し出に「Aさんも今頑張っているの、もう少し待って頂けませんか」とお伝えし、私たちも心が痛み申し訳ない気持ちでしたが、それ以上にAさんもご家族の方も不安で心配な日々が続いたと思います。

そして、固定観念を払拭し、私たち支援員の声に耳を傾けて下さった事は、ご家族の方の寛大さと信頼して頂いたという思いで、とても嬉しかったと同時に身が引き締まりました。

強化子を使ったり、トイレ誘導を増やしたり、パンツを変えたりすることで結果的に問題行動は減少しましたが、いずれもそこにはAさんに向けてのあたたかい関わりがあり、さらに全支援員が心掛けた、普段の何もない時こそ楽しく関わることでした。

Aさんにとって問題行動は問題行動ではなく、関わってもらうための必死の思いだったのではないでしょうか。

今の笑顔いっぱいのAさんを見ながら、当時『リビング』に行ってどう思っていたのか、考えることがあります。

僕が言いたかったのは、  
ただ、僕を見てほしかったんだよ！

